

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>国県道の整備等について (1)</p> <p>滝沢市の道路は、国道4号、国道46号、国道282号をはじめ主要地方道盛岡環状線、一般県道盛岡滝沢線、一般県道鶉飼滝沢線など国道3路線、県道7路線が走っております。このほか、東北縦貫自動車道滝沢インターチェンジや滝沢分レなど道路の要所が存在しております。</p> <p>その中でも市内道路網の最も重要な主要地方道盛岡環状線の国道46号・滝沢分レ間は、盛岡市の市街地を避け青森、鹿角方面から滝沢分レを經由し、国道46号を秋田方面や北陸を經由し関西へ相互に連絡する大型車が多く、生活道路としてまた物流にとっても重要な区間となっております。</p> <p>現在、日交通量2万台近くの車両が行き交い、更に大型車の混入率が20%を超え、県内における大型車混入率が最も高い区間の一つになっています。このような状況にあって、旧規格の狭い道路幅員では交通安全上、非常に危険な状況であり児童生徒や高齢者の交通安全の確保が危惧されています。</p> <p>このことから、交通量調査などを実施し現状把握に努め、ミニバイパスなど斬新かつ具体的な構想の確立と整備の方向性を示してほしいと考えています。</p> <p>更に、岩手山火山災害を想定した場合など、日常的に混雑している区間については緊急避難路としての機能が発揮されることが期待できないことから早急な改善が必要です。</p> <p>また、県都の玄関口として、滝沢市内の国県道の整備は県北地方の方々にとっても重要な課題となっていることから、主要地方道盛岡環状線や国道4号バイパスの渋滞緩和に繋がる、盛岡西廻り北バイパスの計画につきまして検討が必要と考えております。</p> <p>以上のことを踏まえ、次のとおり要望いたします。</p> <p>[ 要望事項 ]</p> <p>1 主要地方道盛岡環状線は、地域住民にとって日常生活に欠かせない重要な生活道路であり、また、災害時の緊急避難路としても重要な役割を担っており、特に滝沢分レか</p>	<p>(1) 主要地方道盛岡環状線木賊川交差点からふるさと交流館までの未整備区間の拡幅改良については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。</p> <p>(C)</p> <p>(2) 都) 下鶉飼御庭田線・都) 上堂鶉飼線八人打地区(滝沢村商工会館前交差点から東側の未整備区間)の整備については、隣接する下鶉飼交差点付近において、今年度から道路改良事業に着手したところであり、今後、要望区間の整備についても、交通量や沿道環境を考慮しながら、県全体の道路整備計画の中で検討していきます。(C)</p> <p>(3) 主要地方道盛岡環状線鶉飼～大沢～篠木地区(滝沢村商工会館交差点から篠木小入口交差点間)については、篠木小入口交差点において、昨年度に事業着手し、今年度は用地補償が概ね完了したことから、早期完成を目指し工事の推進を図っていきます。</p> <p>(B)</p> <p>その他の区間については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。(C)</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B・C</p>

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>ら国道46号までの区間については、区間を区切り、その区間にあった改善方法による渋滞対策や安全対策を講じ、場合によってはミニバイパスなどの大胆な発想による改良など具体的に検討し、事業実施されたい。</p> <p>また、2 順目国体の開催にあたりサッカー女子競技会場となる予定の滝沢総合公園陸上競技場へアクセスする一般県道盛岡滝沢線（都）下鶉飼御庭田線・都）上堂鶉飼線）の八人打地区について事業化されたい。</p> <p>＜要望箇所＞</p> <p>（1）渋滞対策が必要な木賊川交差点からふるさと交流館までの未整備区間の拡幅改良</p> <p>（2）都）下鶉飼御庭田線・都）上堂鶉飼線八人打地区（滝沢市商工会館前交差点から市街化区域内の事業化</p> <p>（3）主要地方道盛岡環状線鶉飼～大沢～篠木地区（滝沢市商工会館交差点から篠木地区交差点間）の未整備区間の拡幅改良</p>				

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>国県道の整備等について（２）</p> <p>滝沢市の道路は、国道４号、国道46号、国道282号をはじめ主要地方道盛岡環状線、一般県道盛岡滝沢線、一般県道鶴飼滝沢線など国道３路線、県道７路線が走っております。このほか、東北縦貫自動車道滝沢インターチェンジや滝沢分レなど道路の要所が存在しております。</p> <p>その中でも市内道路網の最も重要な主要地方道盛岡環状線の国道46号・滝沢分レ間は、盛岡市の市街地を避け青森、鹿角方面から滝沢分レを経由し、国道46号を秋田方面や北陸を経由し関西へ相互に連絡する大型車が多く、生活道路としてまた物流にとっても重要な区間となっています。</p> <p>現在、日交通量２万台近くの車両が行き交い、更に大型車の混入率が20%を超え、県内における大型車混入率が最も高い区間の一つになっています。このような状況にあって、旧規格の狭い道路幅員では交通安全上、非常に危険な状況であり児童生徒や高齢者の交通安全の確保が危惧されています。</p> <p>このことから、交通量調査などを実施し現状把握に努め、ミニバイパスなど斬新かつ具体的な構想の確立と整備の方向性を示してほしいと考えています。</p> <p>更に、岩手山火山災害を想定した場合など、日常的に混雑している区間については緊急避難路としての機能が発揮されることが期待できないことから早急な改善が必要です。</p> <p>また、県都の玄関口として、滝沢市内の国県道の整備は県北地方の方々にとっても重要な課題となっていることから、主要地方道盛岡環状線や国道４号バイパスの渋滞緩和に繋がる、盛岡西廻り北バイパスの計画につきまして検討が必要と考えております。</p> <p>以上のことを踏まえ、次のとおり要望いたします。</p> <p>[ 要望事項 ]</p> <p>２ 国道282号一本木バイパス、主要地方道盛岡環状線や一般県道盛岡滝沢線（都）上堂鶴飼線での事業化されている箇所の事業促進していただきたい。</p>	<p>（１）国道282号一本木バイパスについては、平成22年11月11日に一本木地区の人家連担部を迂回する北側約2.8kmの区間について供用開始を行ったところです。残りの区間については一部用地協力が得られていないことから、供用にはなお時間を要する見込みですが、引き続き地権者のご理解が得られるよう努めていきます。（Ｂ）</p> <p>（２）主要地方道盛岡環状線野沢地区の歩道整備については、いわて銀河鉄道株式会社（IGR）と横断函渠部施工の協定を締結し、平成24年度に工事着手しています。</p> <p>横断函渠部の地質が想定よりも悪く、施工に時間を要しているところですが、平成26年度も引き続き工事を推進するとともに、付替市道工事にも着手し、早期の事業完成に努めていきます。（Ｂ）</p> <p>（３）主要地方道盛岡環状線中鶴飼地区の道路改良については、昨年度に事業着手し、今年度は用地補償手続きを進め、付替え水路の工事に着手する予定です。今後とも貴市と連携を図りながら事業用地の確保を進め、整備推進に努めていきます。（Ｂ）</p> <p>（４）主要地方道盛岡環状線篠木地区の道路改良については、昨年度に事業着手し、用地補償手続きを進めてきました。今年度は用地補償が概ね完了したことから、早期完成を目指し工事の推進を図っていきます。（Ｂ）</p> <p>（５）都）上堂鶴飼線（諸葛地区）の早期完成</p> <p>盛岡滝沢線（都市計画道上堂鶴飼線）の諸葛橋から一本柳交差点までの区間については、平成21年度完成供用したところです。残りの一本柳交差点から東北自動車道東側までの区間については、引き続き事業を進めることとしており、今年度は用地補償手続きを進め</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>&lt;要望箇所&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 国道282号一本木バイパスの早期完成</li> <li>(2) 主要地方道盛岡環状線野沢地区の早期完成</li> <li>(3) 主要地方道盛岡環状線中鶴飼地区の早期完成</li> <li>(4) 主要地方道盛岡環状線篠木地区の早期完成</li> <li>(5) 都) 上堂鶴飼線(諸葛地区)の早期完成</li> <li>(6) (一) 盛岡滝沢線下鶴飼地区の早期完成</li> </ul>	<p>るとともに、改良工事に着手し、整備推進に努めていきます。(B)</p> <p>(6) 一般県道盛岡滝沢線下鶴飼地区の道路改良については、昨年度に事業着手し、今年度は用地補償を進め、交差点改良に着手する予定です。今後とも貴市と連携を図りながら事業用地の確保を進め、整備推進に努めていきます。(B)</p>			

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>国県道の整備等について（3）</p> <p>滝沢市の道路は、国道4号、国道46号、国道282号をはじめ主要地方道盛岡環状線、一般県道盛岡滝沢線、一般県道鶉飼滝沢線など国道3路線、県道7路線が走っております。このほか、東北縦貫自動車道滝沢インターチェンジや滝沢分レなど道路の要所が存在しております。</p> <p>その中でも市内道路網の最も重要な主要地方道盛岡環状線の国道46号・滝沢分レ間は、盛岡市の市街地を避け青森、鹿角方面から滝沢分レを經由し、国道46号を秋田方面や北陸を經由し関西へ相互に連絡する大型車が多く、生活道路としてまた物流にとっても重要な区間となっています。</p> <p>現在、日交通量2万台近くの車両が行き交い、更に大型車の混入率が20%を超え、県内における大型車混入率が最も高い区間の一つになっています。このような状況にあつて、旧規格の狭い道路幅員では交通安全上、非常に危険な状況であり児童生徒や高齢者の交通安全の確保が危惧されています。</p> <p>このことから、交通量調査などを実施し現状把握に努め、ミニバイパスなど斬新かつ具体的な構想の確立と整備の方向性を示してほしいと考えています。</p> <p>更に、岩手山火山災害を想定した場合など、日常的に混雑している区間については緊急避難路としての機能が発揮されることが期待できないことから早急な改善が必要であります。</p> <p>また、県都の玄関口として、滝沢市内の国県道の整備は県北地方の方々にとっても重要な課題となっていることから、主要地方道盛岡環状線や国道4号バイパスの渋滞緩和に繋がる、盛岡西廻り北バイパスの計画につきまして検討が必要と考えております。</p> <p>以上のことを踏まえ、次のとおり要望いたします。</p> <p>[ 要望事項 ]</p> <p>3 巢子駅開設に伴う県道昇格について          &lt; 要望箇所 &gt;</p> <p>(1) 国道4号～巢子駅間 約2,200m</p>	<p>3-（1）県道の認定に当たっては、道路法に規定する要件を具備する路線について、県道として早期に整備、管理する必要性等を総合的に判断のうえ行うこととしています。</p> <p>今後、県が管理している道路や橋梁等の老朽化に伴い、維持管理費の増大が見込まれていることもあり、新たな県道認定は難しい状況です。（C）</p>	<p>盛岡広域 振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>国県道の整備等について（４）</p> <p>滝沢市の道路は、国道４号、国道46号、国道282号をはじめ主要地方道盛岡環状線、一般県道盛岡滝沢線、一般県道鶴飼滝沢線など国道３路線、県道７路線が走っております。このほか、東北縦貫自動車道滝沢インターチェンジや滝沢分レなど道路の要所が存在しております。</p> <p>その中でも市内道路網の最も重要な主要地方道盛岡環状線の国道46号・滝沢分レ間は、盛岡市の市街地を避け青森、鹿角方面から滝沢分レを經由し、国道46号を秋田方面や北陸を經由し関西へ相互に連絡する大型車が多く、生活道路としてまた物流にとっても重要な区間となっております。</p> <p>現在、日交通量２万台近くの車両が行き交い、更に大型車の混入率が20%を超え、県内における大型車混入率が最も高い区間の一つになっています。このような状況にあつて、旧規格の狭い道路幅員では交通安全上、非常に危険な状況であり児童生徒や高齢者の交通安全の確保が危惧されています。</p> <p>このことから、交通量調査などを実施し現状把握に努め、ミニバイパスなど斬新かつ具体的な構想の確立と整備の方向性を示してほしいと考えています。</p> <p>更に、岩手山火山災害を想定した場合など、日常的に混雑している区間については緊急避難路としての機能が発揮されることが期待できないことから早急な改善が必要であります。</p> <p>また、県都の玄関口として、滝沢市内の国県道の整備は県北地方の方々にとっても重要な課題となっていることから、主要地方道盛岡環状線や国道４号バイパスの渋滞緩和に繋がる、盛岡西廻り北バイパスの計画につきまして検討が必要と考えております。</p> <p>以上のことを踏まえ、次のとおり要望いたします。</p> <p>[ 要望事項 ]</p> <p>４ 盛岡西廻り北バイパスの計画につきましてご検討下さいますようお願いいたします。</p> <p>&lt; 要望箇所 &gt;</p> <p>(1) 国道46号～滝沢分レ間</p>	<p>県では、盛岡広域都市圏の将来道路網計画を策定するため、昨年度から盛岡広域都市圏将来道路網計画検討委員会を設置し、検討を進めているところです。</p> <p>盛岡西周り北バイパスの計画については、この計画策定の中で国及び関係市の協力を得ながら検討していきます。（Ｂ）</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>岩手県立大学周辺の産業集積について</p> <p>岩手県立大学（以下「県立大学」という。）は、実学実践の教育が産業界に大きく評価され、大学との共同研究や学生との交流等を求める企業の声が県内だけでなく、全国の企業から聞こえるようになってきております。</p> <p>一方で、これら県立大学の立地の強みを産業振興に繋げるため、岩手県では、平成18年に産業成長戦略、平成20年にはいわて希望創造プラン地域編において、盛岡広域地域へのIT関連産業の集積を目指し、その重点として県立大学周辺への産業集積を掲げております。</p> <p>このような背景の中、平成21年3月に、岩手県、県立大学、滝沢市の3者による『滝沢市IPUイノベーションパーク整備計画』を策定いたしました。</p> <p>本市においても、県立大学周辺への産業集積を重点政策とし、その第一歩として、平成21年5月に滝沢市IPUイノベーションセンターを建設し、その後、県立大学地域連携棟東側の約3haの土地を造成し、平成24年度から分譲開始したところであります。</p> <p>その間には、岩手県立大学との共同研究、地元企業や学生などを中心とした交流事業、滝沢市をフィールド活用した実証実験などの取り組みが活発となり、これら活動に賛同した企業が集積することにより、滝沢市IPUイノベーションセンターが満室に至りました。このような状況から昨年度滝沢市IPU第2イノベーションセンターを滝沢市で整備し今年5月に開所しており、現在、17社の企業が集積しております。</p> <p>岩手県立大学周辺エリアを県内最大規模のIT関連産業の集積地域・開発の拠点とするためには、今後更なる企業誘致と現在立地している企業の開発等の支援について更なる強化を図っていく上でも、第2イノベーションセンターに続く施設設備や、開発環境の整備、並びに人材育成を図っていく必要があります。岩手県の強いリーダーシップのもと、県立大学、滝沢市との連携による対応が必要不可欠と考えております。</p> <p>『滝沢市IPUイノベーションパーク整備計画』におきましては、岩手県の役割としては、県内IT産業等の振興</p>	<p>1 企業誘致につきましては、企業立地促進法の基本計画で、「組込みソフトとIT・システム関連産業」を盛岡広域地域の集積業種として指定し、地域の強みを生かした産業集積に向けて取り組んでいるところです。</p> <p>また、今後、滝沢市IPUイノベーションセンターの入居企業等を中心に業務拡大等による二次展開が考えられることから、引き続き、県内外企業間の連携の可能性も視野に入れながら、企業誘致を進めてまいります。</p> <p>今後とも、企業ニーズを踏まえた効果的な支援のあり方について、貴市の強みを生かせるよう緊密な情報交換、連携を図りながら、引き続き検討してまいります。</p> <p>2 人材育成につきましては、県としても重要な課題と捉え、人材育成に関する企業ニーズの聞き取りを目的とした企業訪問を実施して参ります。</p> <p>また、岩手県立大学との連携により、いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター等を拠点として、ソフトウェアとハードウェアの両方が分かる人材等の高度技術者の養成に取り組んでまいります。</p> <p>また、盛岡広域振興局においてもIT関連人材育成は重要課題として認識しており、今年度、新たに、IT人材育成事業予算を措置し人材育成講座開催するほか、IT関連誘致企業、学生、異業種等との交流を促進するためネットワーク形成促進事業費を措置しております。</p> <p>3 開発機器等の環境整備に対しては、企業訪問を通じてニーズを把握するとともに、岩手県立大学等と連携し、開発等を含む企業活動を支援してまいります。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>C</p>

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>に取組む主体として、企業誘致、IT関連企業の技術者育成、技術高度化への支援、産学連携の推進により県内企業とのアライアンスを行うこととされております。</p> <p>つきましては、県立大学周辺への産業集積を促し、県民所得の向上、雇用環境の創出、人口流出の歯止めという重点目標を達成するため、次の項目につきまして要望いたします。</p> <p>[ 要望事項 ]</p> <p>1 滝沢市IPUイノベーションパーク及びセンターへの企業誘致については県の重要な役割の一つであり、特に企業立地区画への企業誘致について、広域的な企業連携の推進による県内外企業とのアライアンスを行うことや、企業立地を促進するための補助金等の優遇措置制度の構築をお願いしたい。</p> <p>2 企業誘致及び立地企業の更なる成長のためには、人材の育成は重要な課題であり、産学官連携によるIT関連企業の高度技術者育成に加えて、立地企業からも人材に関わる様々なニーズがあり、企業から見た即戦力の高い人材育成のため県の予算確保をお願いしたい。</p> <p>3 『滝沢市IPUイノベーションパーク整備構想』に基づき更なる企業集積のため、開発機器等の環境整備が必要になるものと考えており、県の予算確保についてお願いしたい。</p>				

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>(仮称) 滝沢南スマートインターチェンジの整備促進について</p> <p>岩手県は、本州一面積の広い県であり、本市をはじめ、岩手県を縦断している東北縦貫自動車道は、岩手県の重要な大動脈として利用されており、東日本大震災による復旧、復興のための物流支援や人的移動においても極めて重要な役割を担っております。</p> <p>この高速道路を有効活用・機能強化することは、広い県土において、住民の生活対策等に直結するものであり、東北縦貫自動車道へのスマートインターチェンジの整備は、広域的にも地域住民の移動手段を確保し、利便性の向上や地域振興に大きく寄与するものであります。</p> <p>以上のことを踏まえ、次のとおり要望いたします。</p> <p>[ 要望事項 ]</p> <p>1 交通分散による渋滞緩和やI Cアクセス時間の改善による利便性の向上、産業支援・強化に向けた地域経済活動の基盤づくり、救急搬送時間の短縮による救急医療支援等の整備効果が期待される(仮称)滝沢南スマートインターチェンジについては、平成25年6月に連結許可を受けたところではありますが、早期供用に向けて円滑な整備促進が図られるようご支援を頂きたい。</p>	<p>(仮称) 滝沢南スマートインターチェンジについては、既存の高速道路の利便性を高め、県民の安全で安心な暮らしを守り、活力ある地域社会の形成を図るために必要不可欠なものであることから、必要な予算を確保するよう国に要望しています。今後も貴市と連携を図りながら、整備推進が図られるよう国に対し要望していきます。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>交番・駐在所の新設・移設について            住民の安全安心を守る治安維持は住民の願いであると共に、自治体の最も基本的な責務の一つであります。            盛岡西警察署の管轄区域内となっている滝沢市には、現在交番が2箇所、駐在所が2箇所それぞれ設置されています。            交番・駐在所の位置的変動が最後に行われた昭和60年の盛岡警察署滝沢駐在所（現盛岡西警察署滝沢交番）移転から既に29年が経過しており、その間、当時約3万2千人であった当市の人口は、現在5万5千人を超えています。            また、道路整備や団地開発等に伴い、従前と比べ情勢の変動が大きく、交番及び駐在所の配置箇所を現状に即した場所へ変更することが最重要課題の一つとなっておりますことから、特段のご配慮を頂きますよう強く要望いたします。</p> <p>[ 要望事項 ]</p> <p>1 現在巣子地内に所在している盛岡西警察署滝沢交番を、I G Rいわて銀河鉄道滝沢駅又は巣子駅周辺等交通の要所へ移設</p> <p>2 現在大規模開発が進行中であり、著しい人口増加が見込まれる牧野林地区又は現に人口が集中している土沢地区等への交番新設</p> <p>3 現在国道46号沿いに所在している大釜駐在所を、J R田沢湖線大釜駅付近への移設</p>	<p>交番・駐在所の新設や移設については、昼夜の人口、世帯数、面積、行政区画及び事件又は事故の発生の状況等の治安情勢を総合的に勘案しながら、全県的視点に立って検討を進めています。            今回の御要望についても、このような視点に立ちながら、要望の趣旨を深く認識し、引き続き検討していきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>C</p>

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>一級河川木賊川の河川整備の促進について</p> <p>本市と盛岡市を流れる木賊川は、河川断面が狭小で部分的に天井川となっており、過去度々浸水被害を受け、平成14年7月の台風6号の豪雨では、越水により1,253世帯に避難勧告が発令され、床上、床下浸水が115戸に及ぶなど甚大な被害を受けました。</p> <p>県で現在取り組まれている河川防災工事の一部が完成したことにより、住民が実感できる防災対策が進捗しているものと心より感謝申し上げます。</p> <p>なお、地域住民は可能な限り一日でも早く、より安全で安心できる暮らしを望んでおりますことから、今後の遊水地計画及び河道改修計画につきまして一層の促進を図っていただきますよう要望いたします。</p>	<p>木賊川の河川改修については、「遊水地＋分水路＋河道改修」の手法を治水対策の基本として段階的な整備により事業を進めており、平成23年5月には分水路への通水を開始し治水安全度は高まりました。今年度は、遊水地の整備に向けて、用地取得を進め、平成27年度には第2遊水地の工事着手を予定しています。</p> <p>また、今年度、取得済みの土地の管理及び整備後の利活用や管理のあり方についてを検討する「木賊川遊水地利活用を考える会（仮称）」の設置を予定しておりますので滝沢市をはじめ、関係機関のご協力をお願いします。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B
<p>松くい虫対策について</p> <p>被害が急速に拡大している松くい虫被害は、平成25年6月に本市において初めて確認されたところであり、県当局の迅速な対応とご指導により処理を行うことができました。</p> <p>本市のアカマツ林は958ヘクタールを有し、民有林全体の約18パーセントを占める貴重な森林資源となっています。また、古くから市内に存し、美しい景観を作り出すとともに、水源かん養・土砂流出防備・防風・保健等の機能を有する、後世に引き継いでいかなければならない貴重な財産です。</p> <p>ここ数年の松くい虫被害の状況から鑑みると、本市においても被害拡大が懸念されます。</p> <p>本市といたしましては、情報収集に力を入れ監視体制を強化し、被害木の早期発見に努め、被害域の拡大阻止に全力を尽くしてまいります。岩手県の木「ナンブアカマツ」を保護するためにも県予算のさらなる確保について要望します。</p>	<p>県の松くい虫被害対策では、公益性の高い重要なアカマツ林の保全を図るとともに、未被害地域への被害拡大を阻止するため、「松くい虫被害防除監視帯」を設置し、松くい虫被害防除監視員等による巡視活動を通じ、被害木の早期発見・早期駆除に努めています。</p> <p>また、アカマツ林は木材資源としてのみならず、林地保全・水源かん養・景観の面からも貴重な資源であることから、引き続き事業予算の確保について努力してまいります。</p> <p>特に、貴市を含めた被害先端市町村においては、国・県の防除事業費を重点的に配分しながら、全量駆除を徹底し、被害の終息を目指して取り組みます。</p>	盛岡広域振興局	林務部	A